

ティーネのいいね！ドイツ

沼田市国際交流員が教えるドイツ

もうすぐ2019年ですね。その前にやってくるのが、2018年最後の日、大晦日です。ドイツ語では某ハリウッド俳優さんと同じSilvester（シルヴェスター）なんです。ローマ教皇Silvester1世が12月31日没したことから来ているのだそうです。

ドイツのお正月

ドイツでは、クリスマスは家族で祝い、新年は友人らとパーティーをしながら迎えるというのが定番です。プライベートで集まる場合はラクレット料理を作ることがとても人気です。小さい一人分用のフライパンにチーズ、肉、じゃがいも、野菜などを入れて自分の料理を温めます。少ししか作れないので、食べるまでに時間が長くかかります。ですので、料理ができあがるのを待ちながら、様々な話をして、楽しみながら年が暮れていきます。



それに日本と同じように、大晦日の特別なテレビ番組は1972年からドイツにもあります。それは1963年に撮影された18分しかない、寸劇だけの番組です。

この番組は「90歳の誕生日」もしくは英語の「Dinner for One（1人のためのディナー）」という名前で知られています。出演者はたったの二人です。主人公は90歳の誕生日を向かえるミス・ソフィーと、その執事ジェームスです。寸劇は大きなテーブルがあるダイニング・ルームのなかで行われます。実は、ミス・ソフィーは友人4人を招いていましたが、その友達はもう亡くなっていました。それでジェームスはウェイターの役割以外に、亡くなっている友達のマネもしなければなりません。もちろん、テーブルにいない4人のグラスにもお酒をいれますが、マネをするので、全部一人で飲まなければなりません。ジェームスはだんだん酔っぼらって、様々な面白いことをします。ドイツでは、この番組は毎年再放送されていますので、1988年に「最も多く再放送された番組」としてギネス記録に認定されました。



年越しの10秒前からカウントダウンが始まります：10, 9, 8・・・3, 2, 1 新年おめでとう！新年になったら、ドイツ人はよくスパークリングワインで乾杯します。また、普段は販売が禁止されている花火や爆竹も年越しだけは解禁され、ちょっと身の危険を感じるほど大騒ぎしている光景にも出会います。

Guten Rutsch ins neue Jahr!
(良いお年を!)

作者：クリスティーネ・バウアー（ティーネ）
問い合わせ：c.bauer@city.numata.gunma.jp

